

**Citation:** Poustie VJ, Rutherford P. Dietary treatment for familial hypercholesterolaemia. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2001, Issue 2. Art. No.: CD001918. DOI: 10.1002/14651858.CD001918.

**CRG名:** Cystic Fibrosis and Genetic Disorders

## [最新版\(英語版\)はこちら](#)

**英語版最終改訂年月:** 28 February 2001

**Clib issue No.;** N/U: 2007 issue 4; -

**背景:** 家族性高コレステロール血症は、血中コレステロール上昇、黄色腫症の存在、早発性心疾患を特徴とした遺伝性疾患である。治療の目的は、血中コレステロール濃度を低下させることによって、心疾患リスクを減少させることにある。現在の治療はコレステロール低下食を単独または薬剤との併用を基本としている。成人の治療に有効であることが判明しているほとんどの薬剤は、小児への使用が承認されていない。したがって、食事が家族性高コレステロール血症の小児患者の主な治療法である。代替の食事介入が提唱されているが、家族性高コレステロール血症の小児と成人に対する適切な食事については未だに合意に達していない。

**目的:** 家族性高コレステロール血症の小児と成人において、コレステロール低下食が介入無しや他の食事介入よりもコレステロール低下および虚血性心疾患の罹患率の低下に有効であることを示すエビデンスを検討する。

**検索戦略:** 電子データベースの包括的検索、関連雑誌のハンドサーチおよび学会大会予稿集の抄録集から同定された参考文献を網羅しているCochrane Cystic Fibrosis and Genetic Disorders trials registerを検索した。Groupの試験登録簿の最新検索日: 2003年11月。

**選択基準:** 家族性高コレステロール血症の患者を対象としたコレステロール低下食と他の食事または食事介入無しを比較しているランダム化比較試験。家族性高コレステロール血症の参加者群が適切に定義されており、またこれらの参加者の結果が得られるならば、非家族性高コレステロール血症の参加者と共に家族性高コレステロール血症の参加者を含む試験が選択された。

**データ収集と分析:** 2名のレビューアが独自に試験の適格性と方法論の質を評価し、1名のレビューアがデータを抽出し、1名が独自にデータ抽出を検証した。

**主な結果:** 7件の研究の施行期間により、本レビューでは短期的なアウトカムのみが評価可能であった。治療コンプライアンス、生活の質(QOL)、死亡率、虚血性疾患やアテローム性疾患の所見は評価されなかった。コレステロール低下食と他の食事との間で、評価したアウトカムに対して差は認められなかった。

**レビューアの結論:** 適切なデータがないために、家族性高コレステロール血症に対するコレステロール低下食または他の食事介入の有効性について結論を下すことはできない。家族性高コレステロール血症に対する食事療法を検討するためにランダム化比較試験が必要である。家族性および非家族性高コレステロール血症の両参加者を対象とした試験データは、本レビューの将来の改定結果を変更する可能性がある。新たなエビデンスが得られるまで、家族性高コレステロール血症に対する現行の食事療法を注意深く観察・監視し続ける必要がある。

(監訳 相原守夫)

翻訳公開日: 08年3月19日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がありましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年4回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。